

講義名	地域環境政策		
担当教員	内山 勝久		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この授業は、国内・海外で実践されているいくつかの環境政策を概観し、政策の背景にある考え方を理解することを目的とします。環境問題は地域的な問題から地球規模の問題までさまざまですが、地域の問題を考える場合でも国際的な視野を持つことが求められるようになってきており、海外の事例に学ぶことが有益である場合も少なくありません。授業では統計などの諸資料を活用しながら環境問題の現状を客観的に理解するとともに、国内外の環境政策の潮流などについて解説・検討します。社会科学全般の視点から各種政策を考察しますが、とくに経済学の知見を多用し、近年注目されている環境政策の経済的手法の考え方の理解に重点を置きます。

到達目標

自受講生が、(1)さまざまな環境問題を理解するための基本概念を理解し、現代社会の重要課題である環境問題やサステナビリティについて広い視野から主体的に考察できるようになること、(2)ローカルな環境問題の特徴を理解するとともに、グローバルな環境問題についても地域への影響を理解できるようにすること、(3)環境政策の手段として経済的手法の機能と役割を理解し、地域の環境問題の改善策を提案できるようにすることを目指す。

提出課題

中間課題として、期中にレポートを提出してもらいます。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

中間レポート課題40%、期末レポート課題60%の比率で評価します。授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、満点を越えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

授業中の私語は禁止です。他の専攻的な学生にとって大きな迷惑行為となりますので、厳に慎んでください(集中力を維持してください)。履修中で発音が必要な場合は発音の上行ってください。授業の履修にあたっては、授業内容をまとめる専用のノートを作成することを勧めます。労をいとわず自分の手で書くことにより、自分が理解できていること、理解できていないことが明確になってきます。

教科書				
.特定の教科書は使用しません。.				

プリント資料及び参考文献

担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料はRYUKA Portal経由で毎回配布します。参考文献は必要に応じて適宜授業中に紹介しますが、差し当たって以下のものを挙げておきます。

- ・環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」(各年版)。(https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/)
- ・亀山康子「『新・地球環境政策』」, 昭和堂, 2010年。
- ・浅子和美・落合勝昭・落合由紀子, 『グラフィック環境経済学』, 新世社, 2015年。

授業計画

第1回 イントロダクション： 授業のねらいや環境問題の姿態について
 第2回 環境をめぐる国内外の動き： 環境問題と環境政策の歴史、国際協調について
 第3回 環境政策の考え方： 環境問題と経済活動の関係、環境政策の手段について
 第4回 環境と持続可能な発展： 持続可能な発展の考え方、発展途上の開発・発展と環境について
 第5回 環境と経済成長： 環境と貿易、環境クォータ制度について
 第6回 エネルギー問題と環境政策(1)： エネルギー消費の現状と政策について
 第7回 エネルギー問題と環境政策(2)： 気候変動対策と経済的手段について
 第8回 廃棄物管理政策： 廃棄物の現状と廃棄物問題の経済学的特徴について
 第9回 循環型社会形成への取り組み： 市場を活用した資源有効利用について
 第10回 企業行動と環境政策： 環境政策と企業の環境配慮行動について
 第11回 金融と環境政策： ESG投資など金融を活用した環境政策の動向について
 第12回 都市・まちづくりと環境政策(1)： 低環境負荷のまちづくりに関する経済的手法について
 第13回 都市・まちづくりと環境政策(2)： 環境修復とまちづくり、グリーンインフラについて
 第14回 生物多様性と環境政策： 生物多様性保全のための経済的手法について
 第15回 環境と経済社会： 環境負荷の見える化、幸福度の考え方について

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に、事前に配布された授業資料に目を通し、自分なりのイメージを持っておいください(その上で授業に臨むこと)：約1時間/回。
 授業終了後は、記音が鮮明ならずに確認してください(確認してわからなかった点は質問してください)：約1.5時間/回。さらに、毎回の授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞・雑誌・信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べて、自分の問題意識を醸成してください：約1.5時間/回。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の「到達目標」を達成することで、人間、社会、自然に関する学際的問題である環境問題や、サステナビリティなどの現代社会の重要問題を、身近な課題を通じて理解できるようになり、さらに、地域社会で生起するさまざまな環境問題に関して、経済学を基礎とした改善策を提案できるようになります。これは、経済学部経済学科の学位が卒業時に獲得しておくべき専門・能力である。人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身につけ、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、経済学を基礎として、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、シラバスが修正される場合があります(授業方法、評価方法など)。最新の情報はRYUKA Portalで確認してください。